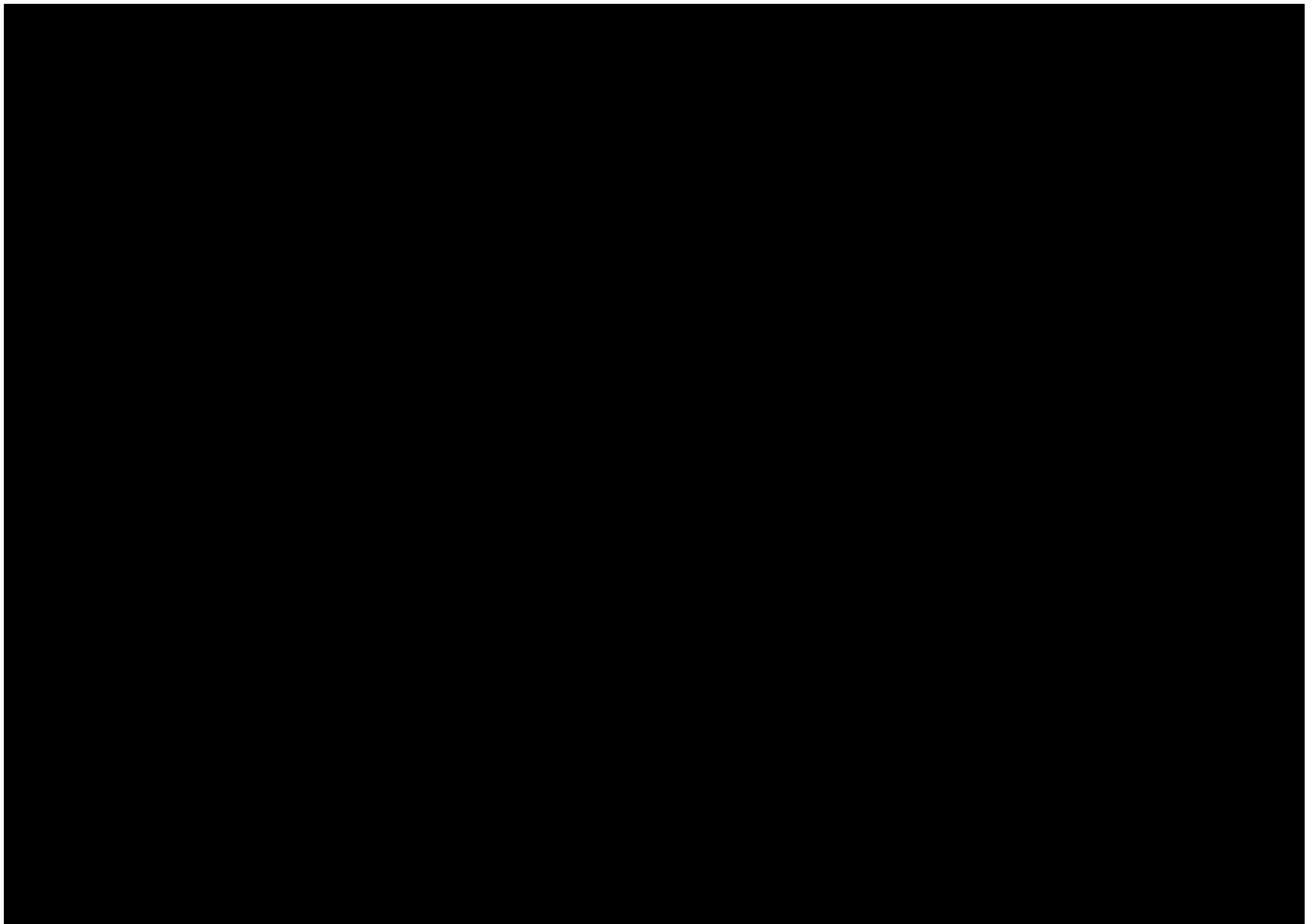


沿革

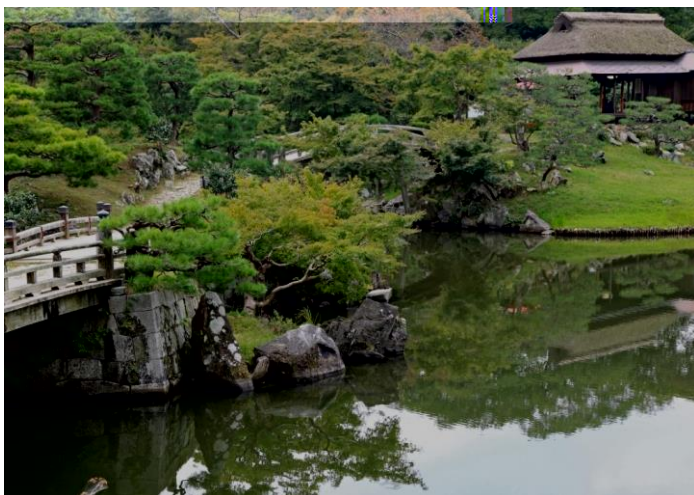
1677年彦根藩の4代藩主井伊直興が下屋敷御殿として作った。作庭家は家臣の松本何右衛門、または越石何右衛門といわれ、彼はあちこちから集めた石を家臣の下屋敷で仮組みした。それを直興が閲覧して修正を加えた。

庭園

上記のように仮組みをしてまで作った庭なので、至るところが見所だ。中央の島も東西南北どこから見ても見応えがある。庭園の隅から隅までしっかりと主張がある。魚躍沼と言われる池には四神仙島である方丈（亀島）、蓬萊（鶴島）、瀛州（蘇鉄島）、壺梁（臥龍橋の橋台）の四島がある。各島の護岸石組みは、この地が京都に近いためか、安土桃山時代の伝統が活きていて、京都の二条城のような豪快な感じがする。



鶴鳴渚の中で主石なる中央の石は蓬萊山でもあり羽石でもある。



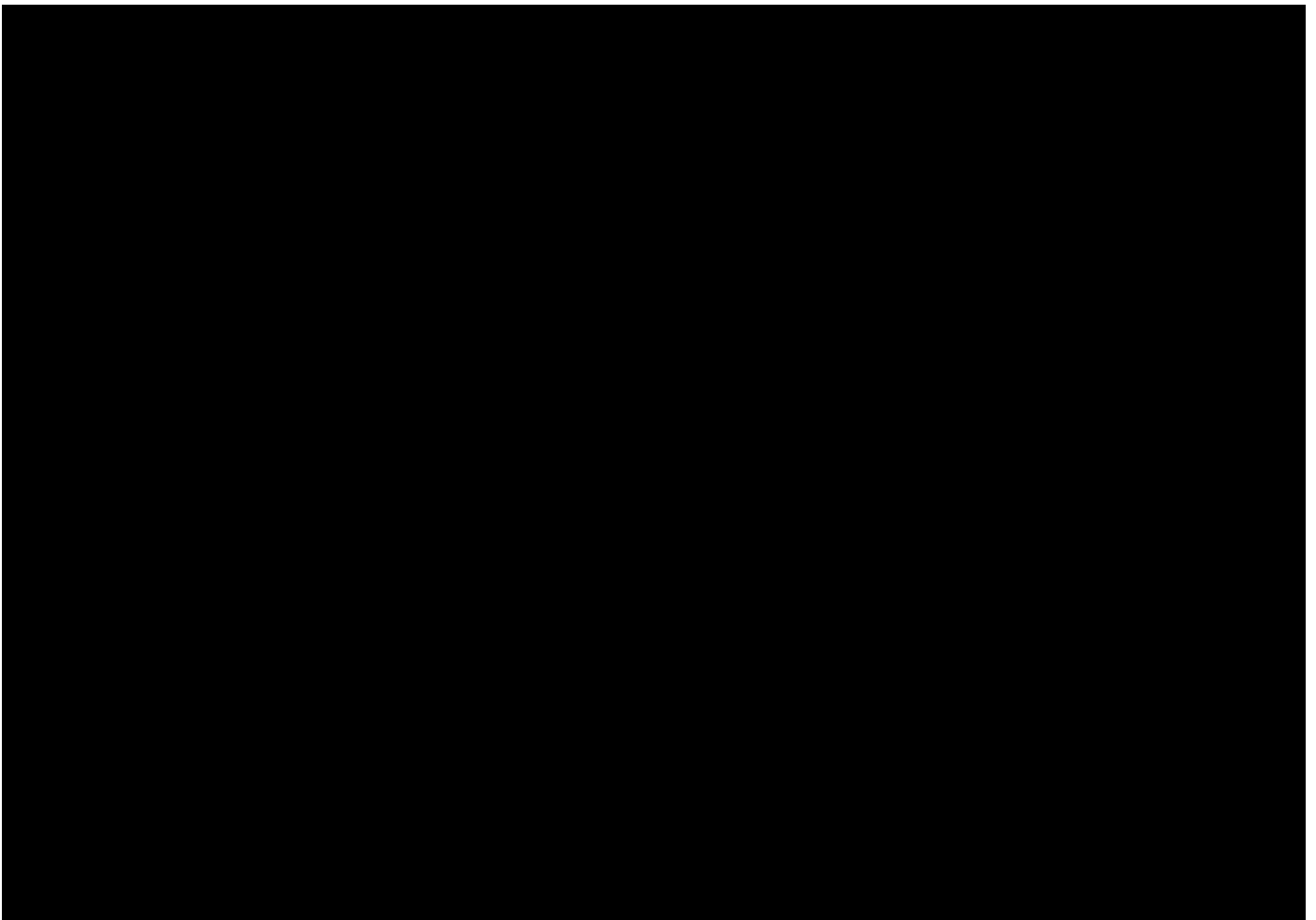
蘇鉄山に渡る臥龍橋の橋台は豪華な亀として組まれている



臨池閣と彦根城



蓬莱山を背にした亀島



鶴鳴渚前の護岸と岩島を武蔵野より望む。石組みの迫力と抽象的配石からくる静謐な空間は「水の龍安寺」とも言え、大名庭園の最高傑作。



石組み側面から観察すると、護岸石組みから自由な石組だ。